

横綱大関磐石

紙相撲新聞

第158回本場所
四日目〜七日目

編集・発行
日本紙相撲協会

紙相撲の歴史に残る無敵の上位陣

3横綱1大関で圧倒の27勝1敗

【第百五十八回本場所四日目〜七日目】

春の到来を感じる2月25日に四日目、五日目、3月4日に中日、七日目と2週連続で4日分が行われた。七日目を終えて、7戦全勝は横綱千代鈴、横綱春ノ翔、大関大神楽の3人、これを1敗で横綱若ノ嶋、平幕の宇治家、大渡海の3人が追う展開となった。



↑七日目、二敗の平幕月山の挑戦を受けた千代鈴。挑発気味に攻め立てる月山を冷静に捌き、引き落して7連勝。安定した取り口で連覇に向けて視界良好だ。

↓春ノ翔、大神楽もそれぞれ佐賀海、出羽翼を下して7連勝。千代との対戦が楽しみだ。



七日目終了時点で、横綱大関の黒星が若ノ嶋の1つだけという前代稀に見る横綱大関がその強さを見せつける場所となっている、これは紙相撲史上初の快挙。いよいよこれから横綱大関の直接対決で優勝争いが展開していくことになる。

横綱千代鈴は新横綱ながら一番安定した相撲を見せている。唯一三日目の四季嶋戦がヒヤリとしたが、それ以外はまったく危ない。四日目に鬼ヶ嶽、五日目に佐賀ノ海、の関脇陣を退けると、中日は出羽翼、七日目は月山と勝間田部屋勢に勝って全勝をキープし、3連覇に向かって突き進む。

全勝 千代鈴、春ノ翔、大神楽
一敗 若ノ嶋、宇治家、大渡海
二敗 烏帽子岳、英、筏、雪若丸
勝ノ川、夢ノ花

七日目は月山の奇襲ともいえる取り口にもどっしり落ち着いた相撲でこれをさばき死角が見当たらない。九日目からの横綱大関との直接対決が今から楽しみだ。

横綱若ノ嶋は四日目に先場所まで同部屋だった弟弟子の佐賀ノ海のものど輪に痛い星を落とす。しかし、そこから連敗することなく立て直し、白閃光月山に勝って、七日目は3連敗中の関脇鹿富士と対戦した。

朝からニコニコ顔の鹿富士乃戸親方。自身の星取表にはすでに白丸がつけられている。「若ノ嶋には3連勝して負ける気がしない」とのこと。若ノ嶋には左を差しての完勝で、このころ若ノ嶋をお得意様にしていく。

鹿富士は今場所は大関がかかっている、9番勝てば昇進の可能性が高く、8番でも相撲内容如何では昇進もあり得るかという状況で臨んだ今場所。五日目に大神楽、中日に春ノ翔に敗れて3敗目を喫し、大関昇進のためにはあと1番も落とせないと途中で若ノ嶋戦を迎えた。

「今日の若ノ嶋戦は真剣に行くぞ！」と鹿賀乃戸親方。「えっ？鹿富士はこれまで若ノ嶋に真剣に挑んでなかったの？」と鹿賀乃戸親方の言葉に耳を疑う錦風親方。若ノ嶋としても、他の2横綱1大関が全勝で来ており、この一番に勝ち越ししかるだけに絶対に負けられない。「このまま鹿富士にいいように取られては横綱の面子に関わる。今日は返り討ちにしてやる。」と意気込む。

ただ、七日目は対戦を前に若ノ嶋にフオロの風が吹く。鹿賀乃戸部屋の十両の若雲山が七日目まで7戦全勝と十両の優勝争いのトップに立ち、また十両東筆頭の黒雲山が4勝3敗と白星を先行させて幕内返り咲きに視界良好となった。



若ノ嶋○(寄り切り)●鹿富士

「鹿さん、運を十両で使い果たしたんじゃないの？」と錦風親方が向けると「いや、そんなことはない。この勢いで鹿富士も勝つぜ！」と自信満々の鹿賀乃戸親方。注目の一歩は若ノ嶋が鹿富士の左差しを許さず、寄り切って勝ち越しを決めた。「え、負けた気がしないよ」と悔しがる鹿賀乃戸親方。これで4敗目を喫して黒星が行。場所後の大関昇進の夢は消え、大関どころか残りの結果如何では負け越す可能性も出てきた。

若ノ嶋は1敗はしたものの、まだ直接対決の結果如何では優勝の可能性もあり、「勝ち越して気持ち楽になったので、残り思いっきり行くぞ！」と気持ちを新たにしていた。

横綱春ノ翔は、先場所の途中休場から見事に復調し、見方によっては千代鈴以上に安定した相撲を見せている。何と言っても出足がいいし、左を差してからも前へ落ちるような感じがしない。

「強いときの春ノ翔に戻ったな。俺は優勝は春ノ翔だと思う。」と優勝予想をする友砂親方。確かに22連勝した時のような鋭い出足が戻り、相撲も早く隙がない。横綱大関と